



発行所 社会 宗像 宗像 電話 0940-62-1311(代) 定価 一年送料共 1000円

『昭和天皇御製』 風さゆるみ冬は過ぎてまちにまちし 八重桜咲く春となりけり 春季大祭斎行



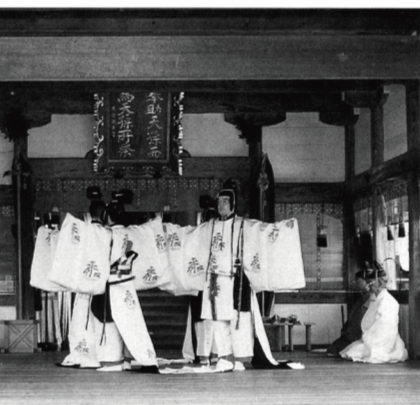
桜花爛漫の春、宗像大社本殿にて四月一日から三日間に亘り、春季大祭が斎行された。
祭典に先立ち、三月三十日地元の奉仕により注連縄の新調、幟立て、各所へ紫雲張り等の諸準備が行われた。
三月三十一日、午後五時総社地主祭、同六時からは宵宮祭が夕暮の中斎行され、明日からの大祭が無事斎行されるよう折念された。
その夜全神職は参籠、心

身共清浄とし大祭奉仕に備えた。
暖かな日差しにつつまれた四月一日(土)、正服に威儀を止した大田宮司以下神職、氏子奉幣使、主基地方風俗舞、浦安舞奉仕者を始め、地元各界並びに多数の氏子奉幣使等が斎館前に列立、一鼓と共に参進、殿舎にて修祓を受け、一同本殿へと向った。宮司以下神職、奉幣使、風俗舞奉仕者、浦安舞奉仕者等所定の位置に着座。宮司一拝に始ま

り雅美の美しい調べが流れる中、祇候座に着座。献贖幣帛供進の儀の後に大田宮司の国家鎮魂、皇室安泰を祈念する祝詞奉進に続き、宗像大社氏子代表として津屋崎町の麻生久彦氏が氏子奉幣詞を奉じた。
続いて地元田島地区青年団奉仕による主基地方風俗舞が奉納された。
昭和三年に今上陛下御即位大嘗祭に際し、福岡県に主基斎田が定められた時作られたこの主基地方風俗舞は、門外不出が慣しであるが、特別の恩宥を以て当社にのみ伝承保存され、現在でも田島区青年団により賑々しく奉納されている。
次に上土、軍衣を身につめた地元浦安舞学生四名奉仕による浦安舞が奏され、桜咲く神苑に優雅に舞われた。続いて宮司が、玉串を奉奠、全神職が拝礼の後、氏子奉幣使、神主代表者等多数が玉串拝礼を行い祭典は滞り無く終了。
土曜日ももあり、桜見の参拝者で八に賑わいを見せる境内では、恒例の神賑行事「奉納剣道大会」が早朝より行われ、日頃修練した少年剣士等が技を競い合い、気合の入った掛け声が

終日神域にこたまし、大祭に一層花を添えた。
明けて二日、春づからかな天候に恵まれ、太鼓の音が神域にこだまし、春季大祭一日祭が斎行された。
午前十一時、地主祭並びに高宮祭、第二三宮祭が執り行われ、同十一時には総社祭が斎行され、「海上安全」大漁満足」が宮司の奏する祝詞で折念された。

今年度の献玉若布採取表
彰者は次の通りです。
神湊 川西 勝利殿
水島 義弘殿
津屋崎 七田 勝雅殿
西野 廣康殿
西野 正殿
田畑 政義殿
平田昌三郎殿
梶木 安生殿
児島 智殿
山下 秀二殿
以上十一名



御 札

春季大祭斎行に際しましては、皆様方より心からなる御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げます。皆様方の益々の御繁栄を心よりお祈り致します。
平成十二年四月吉日
宗像大社社務所 各位



余滴

福岡県が毎年海外へ農業実習生を派遣して居る。農業の後継者育成と世界農業の事情教育を外国で学び、人類の食生活の向上を計ることを目的とする派遣団で、今年で二十回を数える。
今年の団長を務めた福岡県山門郡山川町の山下真司さんはミカン農家の出身である。実習地はブラジルの農場で約二ヶ月間学んだ。
この農場は福岡県出身の先輩が営む農場で、八人家族で経営している、その中には三世の人も居る。祖父、両親、子供、孫の家族体系が立派に守られ、朝夕の挨拶、大きな声で「ハイ」と答える返事「ありがと」の気持ちも忘れず周りの人を思いやる気持ちがみちみちとあふれている日常生活を見たとした山下さんは、現地から「いま、自分は、心の実習中」と書かれたそうである。家族のきずなの強さ、美しさを、今の日本と比べて「恥かしくなつた」とも書き送られている。
ブラジルで、あまりにも上手な「日本語」を聞き「なぜそんなに」と軽い気持ちで尋ねると「日本人であることに誇りをもっているからです」との返事に「自分が恥かしくなつた」とも書かれている。「いまの日本人が忘れかけたものがあそこにはあります。それは、日本人の心、日本人としての誇りです」とブラジルから帰国したばかりの山下さんは語られている。
戦前までの日本家族の家族系体が壊れ「核家族」なる系体が生れた。家族について反省して見る時が来ている。

人事異動

四月一日付で、人事異動を左記の通り行いました。
宮司 大田 可愛 文化財事務局長(兼)
権宮司 神島 定 社務本局長
欄宜 升谷 勝良 経理部長・電算室長(兼)
山田 幸雄 祭儀部長
文化財事務局長代理(兼)
石橋 清寿 庶務部長・海洋分局長(兼)
権欄宜 堤 宏 経理部長代理
高尚 正秀 祭儀部長代理
門司 成人 経理部副部長
渡邊 秀丸 庶務部副部長
杉山 宏彦 海洋分局事務局長(中津宮)
宇都宮 勤 電算室長代理(祭儀部付)
伊藤 佳和 庶務部広報課長
葦津 幹之 経理部会計課長
佐々木 大治 経理部副課長
出仕 中原 裕生 祭儀部事務課員
御床 直之 庶務部庶務課員
大塚 宗延 祭儀部儀式課員
飛梁 孝佳 祭儀部儀式課員

非常勤 大野 宗康 庶務部付

匠木組の家
総合建設業 株式会社 弘江組
事務所 〒811 3406 福岡県宗像市大字桶元一〇二五
電話 〇九四〇〇三二一五六七

春風薫る 神郡のまつり

王子神社春祭



宗像市王丸にそびえる許斐山(標高二七二米)の頂上に鎮座する王子神社に於て四月三日、例祭が斎行された。

当社社外旗社であるこの王子神社は、素戔嗚命を御祭神とする社で、毎年当社神職が祭典を奉仕している。当日は、許斐山麓の熊野

明治十八年に改修された石の祠の前に、神儀がお供えされ祭典開始。新鮮やかな神郡宗像及び、春光できらめく玄界灘が一望できる神前に、王丸地区総代、

松尾神社祭

宗像大社の境内末社として鎮座する松尾神社の神様は、古くより酒造りの神として知られ、総本宮は、京都に鎮座する松尾大社であり、御祭神は大江山神と当社社外旗社である大江山神と市杵島姫神が祀つてあり、松尾大社として全国の酒造家の尊崇が篤い御社である。当社社の松尾神社では、去る三月十九日に、新酒の醸成を無事に終えた事を奉告し、感謝の念を捧げた御酒造報告祭が斎行された。

好天に恵まれたことに感謝しつつ、峻しい山道を下り折木立の間から開ける下界を眺めながら進み、山頂の王子神社に着く頃には軽く汗ばむ程であった。

神社でも同時祭典が斎行される為、王丸区長を始め関係者は、二組に分かれ参列した。

当日に恵まれたことに感謝しつつ、峻しい山道を下り折木立の間から開ける下界を眺めながら進み、山頂の王子神社に着く頃には軽く汗ばむ程であった。

奉納剣道大会

今年の奉納剣道大会は、当社奉納大祭の日と重なって、文字通りの神賑行事となった。

午前七時に、早いチームは早社社し、早速防具を着け軽く汗を流す。

午前九時、参加選手三百七十七名は、本殿前の会場に集合、まず敵を受け、審判長の諸注意等の後、試合開始となった。

始となった。祭典中の約一時間、試合が中断されたが、午後三時半には約百試合全てが終了した。

試合の結果は次の通りです。

- 男子の部
 - 優勝 小学一、二年生
 - 準優勝 自由ヶ丘剣道教室
 - 三位 玄辰館

- 小学三、四年生
 - 優勝 河東剣道教室
 - 準優勝 池野剣道教室
 - 三位 日の里東剣道教室
- 小学五、六年生
 - 優勝 東部少年剣道
 - 準優勝 玄辰館
 - 三位 南郷少年剣道
- 中学生
 - 優勝 城山中学校
 - 準優勝 日の里中学校
 - 三位 玄辰館

- 女子の部
 - 優勝 玄辰館
 - 準優勝 河東少年剣道
 - 三位 自由ヶ丘少年剣道
- 小学生
 - 優勝 玄辰館
 - 準優勝 河東中学校
 - 三位 城山中学校



恒例の奉納大祭が、去る四月四日より六日の三日間斎行された。折から境内は桜花爛漫となり多くの参拝者の人々で賑わった。

同神社の春の祭典は別名「桜祭り」とも言われ、大祭を中心に前後一週間に亘り様々な神賑行事を催しなど行われ、花見を兼ねた人々で終日の賑わいが続く。

宮地嶽神社

恒例の奉納大祭が、去る四月四日より六日の三日間斎行された。折から境内は桜花爛漫となり多くの参拝者の人々で賑わった。

同神社の春の祭典は別名「桜祭り」とも言われ、大祭を中心に前後一週間に亘り様々な神賑行事を催しなど行われ、花見を兼ねた人々で終日の賑わいが続く。

トヨタカローラ博多(株)宗像店 竣功祭



四月十三日午前十一時よりトヨタカローラ博多宗像店の竣功祭が執り行われた。当日は、当社神職一名、巫

女二名にて祭典を斎行。トヨタカローラ博多代表取締役会長長久恒謙造氏、代表取締役社長久恒兼孝氏外、関係者が多数参列し、滞り無く祭典を終了した。

トヨタカローラ博多宗像店は昭和四十二年に現在の宗像市須恵にて営業を開始し、今年で三十三年目を迎える。社屋の老朽化により今年度、新築改築を行ってこの度の竣功に至った。

新社屋は二階建てで一階はショールームとフロントカウントナー、二階は事務所になっている。今までより広い整備場となり、自分の車の整備状況がショールームからガラス越しに見ることが出来る。敷地は今までと同様の広さであるが、社屋配置の変更により今までより随分広い駐車場が確保されている。四月二十二日より新装オープン記念の各種イベントが開催される運びであり、もしよから車が通ずりもつと云い、今後益々このご隆昌を祈念申し上げます。

新出光春祭り

福岡市博多区貝町に「あなたといつてもイデックス」のTVCOMマーシャルにおなじみの株式会社新出光の本社ビルがある。このビルの屋上には宗像神社と稲荷神社が鎮座しており、毎年当社の神職が出向奉仕している。

四月三日は、宗像神社の春祭り、当社より太田宮司以下、名の手職奉仕のものと祭典を執り行った。

鐘崎 安永 久子
期限まで一年入力の免許証車のポケットに入れ運転者(評)期限が切れても作者には大切な形である運転免許証。いわんやまだ更新まで一年あるそれは生きていく夫のそのものである。リズム感に欠けた散文的敘し方と言う瑕があるが、捨て難い一首である。

光岡 河村 久光
群雀ひとりリズムに飛びて行く春田おこしのはじまる野の空
(評) 上句の描写は雀たちの飛びさまであると共に作者のこのころ弾みでもある。春耕のはじまったひろびろとした田園の景の見てて楽しい。

大島 越智 治子
対岸に渡る船影見えぬまで黄砂はくもる一日暮れゆく
(評) 時化の多い冬がやっと終わったのに今度は黄砂。同じ黄砂でも鳥に住む人にとっては迷惑千万である。「黄砂にくもる一日暮れゆく」にこもる悲感を感じた。

池田 小田 一イセ
歌のこぼれある音耳であらねば別の道ひらけむに
(評) 八十歳を越えてはなほ熱心に歌に励む作者、耳がもつと聞こえるのになあ、と上手になれるのになあ、と言ふもどかしさを率直に詠て共感を呼ぶ一首である。

田久 井上 光
四、五本の白梅咲き華やげり光れずに残る坂の宅地
名古屋 小田 喜一
街川に打ち捨てられし長靴を住処となすか稚魚は出入り
(評) 期限が切れても作者には大切な形である運転免許証。いわんやまだ更新まで一年あるそれは生きていく夫のそのものである。リズム感に欠けた散文的敘し方と言う瑕があるが、捨て難い一首である。

朝野 藤井 浩子
古代史を学ぶ旅にて八百年の樹齢の櫻を声なく仰ぐ
名古屋 小田 留子
川水に漂りゆきたる鶴の鳥の浮びきしとき魚を呑みたり
田野 森 づるの
大木の枝ははれて立つ姿手の無き人に見えて寂しき
光岡 青 照子
沈み花の香りがはこぶ想ひ出は病に過ぎし青春の日々
福間 中村 勇
妻と子を残して長兄戦死せり平成の今も暗き影あり
光岡 竹浦 葛明
玻璃目透き床に差し入る春の日の陽炎の影しきりにゆらく
田野 森 甲子
松山に没りゆく夕日赤黒し黄砂のせいか輝きもなく
日里 石松 弘次
千潮の海石に付きし牡蠣を採り食えはびろろる旬の味なり
在 自 佐々木和彦
川原の菜の花の黄の濃くなるとは昼の日差しの日々につよまる
日里 大和美由紀
神祕な色をひそめし黒格立花廊の庭に輝く
原町 八波 五月
百年の古家解く日の迫り来て納屋の釣竿は夫の面影
自由ヶ丘 細川 桐子
雑巾の中のにびいしえんどうの花をつけるて風にゆれる
福間 池浦千鶴子
納屋のなまきすなをに喜べぬ歳思ひつつ申止場を出る
城南ヶ丘 中間日出子
疎開地に迷い迷いて行きつきぬ懐しき家懐しき墓
光岡 古森テル子
如月の気温の変化にたじろぐも野辺は春めき風は冷めたし
光岡 森田富佐子
亡き母と共に飾りし床の間の雛の横顔今も忘れず
曲 天野 玲子
七十一のわが誕生日寝たきりの母の足腰さすりて暮る
福間 井上かつみ
鳴り初むる電話が一瞬間耳を立てし厨子C・M開く
光岡 四之宮多恵子
眞白なる稚柱立つ庭に出で朝の日輪に染めぬ
吉留 高山 信子
師の言葉ききもらさじと眞ん前に精神対峙のめざしゆく
武丸 中村さつき
娘に委ねし三回忌済みし今日己夫の五十年思ひ眠れず
八幡宮 有吉 陽子
八十路すき細打つ老と声交す土の膏のたつ顔ひの時を

第四六六回 宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選
毎月 25 日 夕切

